

「平和の継承」(九条は日清・日露の時から)

浜田米子 年金者組合組合員 (鳥取県)

改憲論者の一つの口実に

「日本も普通の国にすべきだ」というのがある。

「護憲」を主張する人は

「9条は多大な犠牲によってあがなわれた
かけがえのない遺産。

「敵地攻撃能力」と岸田政権が言い出す

これを聞いた時身の毛がよだった

想像してみてください。

ふつうの国って何のこと！

人類が大量破壊兵器を手にした今

日本も人類破滅の道にしようと

言っているよう

日清日露戦争の非戦争論者に

内村鑑三、新渡戸稲造、幸徳秋水等

「戦争はいつも資本家政治家のためにあった
領土問題や市場はいつもこれらの人にかかっているに
すぎない。多数の国民、労働者、貧民の
あづかり知るところではない」

社会主義者の幸徳は「平民新聞」で非戦を展開

内村鑑三は

「平和を実現する人は幸いである。その人たちは
神の子と呼ばれる」(マタイ福音書第5章第9節)
この聖句により、キリストを信じる者の態度を明確にした。

矢内原忠雄は太平洋戦争に突入していく中

「国の理想は正義と平和にある。弱者の権利を
強者が蹂躪から守ること」と中央公論に論じ
東京帝国大学の職を追われた
戦後は東京大学教授として復帰。
その発言は平和憲法論、再軍備反対、核廃絶
安保改定反対など網羅している

矢内原は回顧している

新渡戸が自由と責任について
内村が信仰に基づく教えを
相並んで私という人間を組み立てたと

日本の歴史を直視しようとした
家永三郎は、矢内原を評して
「敢然と侵略戦争推進に正面から反対した
良心的な日本人が少数ながら存在した事実
のみが一筋のスキの光、私のなぐさめ」
又、日本の反戦思想が占領軍の
押しつけではなかったことを証明できると言い切る

ここまでの綴りは
神戸ルーテル神学校教授橋本昭夫
「九条とシャローム」の論文から得た
私の知識の片鱗です。

知識は力、また確信
次の行動を力強く歩ませます。
小さい者でも仲間と共に大きな草の根運動になる。
小さな者が大きな平和の継承者になれます。